

千葉県鴨川沖で漁獲されたマスノスケ *Oncorhynchus tshawytscha* の初記録

誌名	千葉県水産総合研究センター研究報告
ISSN	18810594
著者名	尾崎,真澄 内山,雅史
発行元	千葉県水産総合研究センター
巻/号	16号
巻号補足	
掲載ページ	p. 29-31
発行年月	2023年12月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



千葉県鴨川沖で漁獲されたマスノスケ *Oncorhynchus tshawytscha* の初記録

(資料)

尾崎真澄^{*1†}・内山雅史^{*1}

First record of King salmon *Oncorhynchus tshawytscha* caught off the coast
of Kamogawa, Chiba Prefecture

Masumi OZAKI^{*1†} and Masashi UCHIYAMA^{*1}

千葉県鴨川沖に設置された大型定置網において、サケ科魚類の一種であるマスノスケが漁獲された。これは、千葉県内における標本を伴う捕獲事例の初記録となる。本種は、北日本沿岸への回遊が知られているが、太平洋側での分布南限は三陸地域とされ、千葉県沿岸での漁獲は希有な事例である。2021年12月から2022年4月にかけて、銚子犬吠崎沖に親潮由来と考えられる冷水域が確認されており、例年よりも南方への回遊が促進されたものと考えられた。

キーワード：マスノスケ、キングサーモン、鴨川沖、定置網、標本

はじめに

マスノスケ *Oncorhynchus tshawytscha* は、サケ科サケ属の両側回遊魚で、主な分布域はアラスカ〜カムチャッカ半島の北太平洋、オホーツク海、日本海北部で、特にアラスカ沖の北太平洋に偏る。日本沿岸にはロシアの河川に回帰する個体群の一部が来遊し、北海道沿岸や日本海側では能登半島までの捕獲記録があり(飯田 2016, 加藤ら 1982)、太平洋側では岩手県や宮城県で漁獲される(岩手県 2019, 小谷ら 1987)。過去には茨城県での捕獲記録がある(藤本 1965)。今回、2022年6月に千葉県鴨川漁港で水揚げされた定置網漁獲物の中に「マス」と表示された魚が確認され、測定・写真撮影を行うとともに、購入業者から提供を受けた魚体の一部(鰭および臓器)を用いて精査したところマスノスケであることを確認したので報告する。本記録は千葉県内における本種の標本を伴う初めての捕獲記録となる。

材料と方法

千葉県鴨川市沖に設置された大型定置網で漁獲されたマスノスケ1個体の尾叉長および体重を水揚市場で測定するとともに写真撮影した。また、落札業者から鰭および臓器の提供を受け、雌雄、卵巣重量、胃内容物を確認するとともに測定を行った。また、胸鰭のエタノール標本を作成し、千葉県立中央博物館の登録標本とした。

結果

記載標本

1個体(尾叉長 FL61.2 cm, 体重 2.3 kg, 図1)、千葉県鴨川市沖合、2022年6月1日、採集方法 大型定置網、採集者 鴨川市漁業協同組合。千葉県立中央博物館登録 CBM-ZF22300、遺伝子分析による部分配列登録 DDBJ Accession NO. LC717563 (URL: chiba-muse.or.jp/DB/, 2022/10/23 確認)。

*1 千葉県水産総合研究センター 〒295-0024 千葉県南房総市千倉町平磯 2492
Chiba Prefectural Fisheries Research Center, 2492 Chikura-cho Hiraiso, Minamiboso, Chiba 295-0024, Japan
† E-mail m.ozk2@pref.chiba.lg.jp

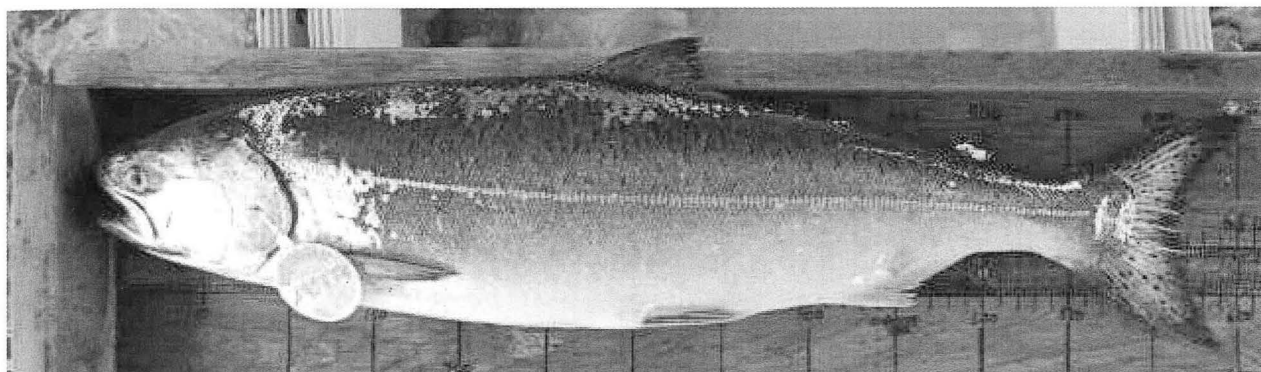


図1 鴨川沖の大型定置網で漁獲されたマスノスケ

表1 鴨川沖で漁獲されたマスノスケ測定結果

測定項目	測定結果
尾叉長 (cm)	61.2
体重 (kg)	2.3
雌雄	雌
卵巣重量 (g)	15.1
肝臓重量 (g)	24.0
背鰭条数	13
幽門垂数	135
胃内容物	空胃

漁場環境

定置網の設置場所は、鴨川市沖合北緯 35 度 04 分、東経 140 度 08 分、水深は約 20~50 m、周辺海域の表層水温は 19.9℃であった。

記載

標本各部の計数形質と測定結果を表1に示す。体側は側偏し、背鰭1基と脂鰭1基を有する。魚体背部および尾鰭に明瞭な黒点が観察されるとともに尾鰭の外縁は黒色を呈していた。本州の太平洋側の沿岸域で春から夏にかけて採捕されるサケ属魚類には同属のサクラマス *O. masou* やカラフトマス *O. gorbuscha* が存在するが、魚体背側と尾鰭に明瞭な黒斑があることや尾鰭外縁に黒い縁取りがあることでサクラマスとは異なり、かつカラフトマス成魚の大きさが全長 60 cm 程度までであることなどから本個体をマスノスケ

と同定した(細谷 2013)。なお、千葉県立中央博物館では、登録した標本を用いた遺伝子分析によっても、本個体がマスノスケであることを追認している。

考察

本報は、千葉県内におけるマスノスケの標本を伴う捕獲事例の初記録である。本種の日本沿岸での確認事例は、日本海側では能登半島までであり(飯田 2016, 辻 1999)、太平洋側では岩手県(岩手県水産技術センター 2019)や宮城県(小谷ら 1987, 宮城県さけます増殖協会 2018)で漁獲されるほか茨城県でも記録がある(藤本 1965)。本種が漁獲された 2022 年冬季の房総沿岸の海洋環境は、2021 年 12 月から 2022 年 4 月にかけて、親潮由来と考えられる冷水(5℃以下)が犬吠埼沖の大陸斜面上の水深 300~400 m で観測された。この冷水域は 5 月には縮小したが、勝浦沖の水深 100 m 以深は水温 15℃以下で前年より 3~4℃低く推移し、むしろ犬吠埼沖より低かったことから、一度南下した魚が北上せずに、勝浦沖ー鴨川沖に滞留することが可能であったと考えられた(千葉県水産総合研究センター・千葉県農林水産技術会議 2021, 2022a, b)。藤本(1965)は、1963 年に茨城県下でマスノスケが大漁(27 トン)となった事例について精査し、同年は6月中旬まで親潮系水が茨城県沿岸に滞留し、異常冷水による特異現象と位置づけている。藤本(1965)の記載のように、2022 年冬季の海洋環境が親潮系水の影響を受けていたことにより、本種の南下回遊がより南方にシフトし、鴨川沖定置網へ迷入したものと考えられる。

日本近海に回遊してくるマスノスケは、アジア系の河川型と呼ばれるものと考えられ 1~4 年に渡り、海

洋での越冬を行う。また、小谷ら（1987）は宮城県下でのマスノスケの漁獲例は 5～6 月であると論じており、本個体の漁獲時期と重なる。本個体は 2kg 程度の小型魚であったことも併せ、海洋生活期の若齢魚が親潮系冷水とともに南下回遊したものが房総沿岸域に迷入したものであろう。

なお、千葉県の沿岸においてサケ科魚類が漁獲されるのは主にシロサケ *O. keta* であるがごくわずかであり、シロサケ以外はサクラマスが稀に見られる程度である。そのため、水揚市場では魚種判別までされず「マス」と称して扱われている。本県銚子沖で操業する底曳網や房総沿岸の定置網では「マス類」として稀に漁獲されており、親潮系冷水の南下が顕著な年には、種判別されないまま本種が混獲されていた可能性が考えられた。

本個体の記録にあたり、市場における測定及び写真撮影に協力いただいた鴨川市漁業協同組合に感謝する。また、魚体の一部を提供いただくなど多大なご協力をいただいた南房総市の水島氏には、深くお礼申し上げます。さらに、標本登録や遺伝子分析にご協力いただいた千葉県立中央博物館の佐土哲也博士、福地毅彦氏にこの場を借りてお礼申し上げます。

文献

- 千葉県水産総合研究センター・千葉県農林水産技術会議（2021）沿岸定線観測速報ちば（2021 年 12 月），3p.
- 千葉県水産総合研究センター・千葉県農林水産技術会議（2022a）沿岸定線観測速報ちば（2022 年 4 月），4p.
- 千葉県水産総合研究センター・千葉県農林水産技術会議（2022b）沿岸定線観測速報ちば（2022 年 5 月），4p.
- 藤本武（1965）茨城県沿岸漁協に関する調査－Ⅱ 異常冷水による特異現象（特にマスノスケの出現），茨城県水産試験場試験報告，昭和 38 年度，1－22.
- 飯田真也（2016）本州日本海域におけるマスノスケ・カラフトマスの特異的な漁獲，SALMON 情報，10，44-48.
- 岩手県水産技術センター（2019）いわて大漁ナビ，URL:<https://www.suigi.pref.iwate.jp> 2022/10/23 確認.
- 加藤史彦・山洞仁・野田栄吉（1982）日本海におけるマスノスケの漁獲記録，日本海区水研研報，33，41-4.
- 小谷祐一・木曾克裕・竹内勇（1987）宮城県沿岸におけるサクラマスの漁獲に関する情報とサケ属魚類の水揚げ量の年変動および季節変化，東北区水研研報，49，61-71.
- 辻俊宏（1999）日本海でのマスノスケ再考，日本海区水研連絡ニュース，387，1-3.
- 宮城県さけます増殖協会（2018）宮城のサケ・マス（パンフレット），6p.
- 細谷和海（2013）サケ科. 「日本産魚類検索 全種の同定」（中坊徹次 編），第 3 版，東海大学出版会，東京，pp.362-367.

（2022 年 11 月 15 日受付，2023 年 10 月 16 日受理）